資料4

第六次長期総合計画（策定中）羽村市基本構想の未来をつくる５つのコンセプト
「自分らしく生きる」「成長をはぐくむ」「スマートにくらす」「にぎわいを創る」「くらしを守る」

市内経済活動の基盤強化や市内産業の活性化を図り、羽村市を訪れる人との交流の輪を広げることで、にぎわいがあふれるまちを目指します

羽村市の経済活動をリードしてきた西東京工業団地の造成から50年が経過し、工場設備の老朽化や、企業の海外進出、輸送網の延伸などの社会の変化により、羽村市の産業を取り巻く環境は、変化の時期を迎えています。市内の産業が元気で、人の交流が盛んであることは、まち全体に活気やにぎわいを与えます。市内には、きらりと光る技術や開発力などを持った魅力的な企業や事業所がたくさんあります。すべての産業が、羽村市で長く活動しながら新たな価値を創造し、羽村市が新たな産業の拠点となることができるよう、また、羽村市を訪れる多くの人が、羽村市の人々と楽しい時間を共有し、交流の輪が広がることで、羽村市に多くのにぎわいが生まれるよう、次のようなことに取り組みます。

1．先端技術産業が集まるまちを目指します。
そのために、産業振興と都市計画の両面から、先端技術産業などを始めとする企業誘致や、新たな産業の創出を図るとともに、産業集積による先端技術などの開発拠点を形成し、地域における産業連携を促進していくことに取り組みます。

2．市内産業が元気に活動するまちを目指します。
そのために、羽村市の経済活動を支える工業・商業・農業・観光業が、それぞれの事業者の個性を大切にしながら、相乗的に発展していけるよう、市内産業の魅力向上に取り組みます。

3．人が集まり、交流を生むまちを目指します。
そのために、市内産業の効果的な魅力発信や、多くの人が集い、交流が生まれる駅周辺などの基盤整備を行うとともに、羽村市に関わる人との交流を生み、まちに活気やにぎわいを創ることに取り組みます。

どんな方向性の施策を行えば、現状の姿から目指す「未来の姿」にたどり着けるか

考慮すべき外部要因

- 新型コロナウイルス感染症のために飲食業の多くが休業・時短営業を強いられており、テイクアウトやキッチンカー、通信販売など新しい業態に取り組む事業者が出ている
- 市内外で企業の入れ替わりが起こっており、大規模事業所の新規立地によって人材確保が競争のようになっている
- テレワークなどの影響か、2020年の駅乗降客数は2019年と比べ羽村駅で3,000人、小作駅では4,000人減少している
- 人口はこの10年で2,000人以上減少している。年少人口及び生産年齢人口が減少しており、老年人口のみ増加している。

など

市内産業の現状と課題

工業の現状・課題

- 「人材確保」には、人口減少・少子高齢化の中で確保のみならず、定着、戦力化まで支援ニーズがある
- 市内事業者間でお互いの顔が見えにくい
- 事業者と市民との間の接点が乏しい、地域との交流が少ない
- 立地・操業継続のための市民理解・交流の促進
- ニューノーマルに対応した新事業展開など、リスクを取る取組みへの支援が必要
- SDGsやDX、CASE、カーボンニュートラルなど、これから対応が求められる分野の取組みについて、地域間で情報を収集し、共有できる体制を整える
- 企業誘致の推進

商業の現状・課題

- 土産品の開発やピンチをチャンスに変える取り組みなど、新たに取り組みたくても体力の少ない個店には難しい。前向きな挑戦を支援する体制が必要
- 事業承継・創業ニーズと承継予定者のいない事業所とのマッチングの支援
- 生活インフラとしての商業集積の維持、上記とあわせて創業とすぐに廃業させない支援
- 事業者同士及び事業者と市民との関係性づくり
- 農商連携など、異業種との連携
- 買い物環境の充実
- ニューノーマルに対応した新事業展開、デジタル活用などへの支援

農業の現状・課題

- 直売所の維持・発展は不可欠。直売所以外の売り先・売り方も必要
- 援農ボランティアや市民農園の拡充などによる市民の理解促進が必要
- 農商連携にニーズはあるものの、需給バランスや時期が限られることなどが課題
- 生産の場所としてだけでなく、多面的な機能がある農地の活用と保全
- 特産品や加工品の開発などによる高収益化や、スマート農業などによる生産性を向上する取組みに対する支援が必要
- 上記のスマート農業やオンライン販売、またテレワークの推進によって働き方が変わったパラレルワーカーや半農半Xと呼ばれるような人々が市内で農業に携われるような環境整備に取り組み、農業のニューノーマルに対応していく
- 農業分野での産学連携の検討

観光の現状・課題

- 入場料などでお金を稼げる観光資源はないため、各スポットに人が来てもらえるようにすることと同時に、お土産品の開発や飲食店の協力を得ることによって、お金が落ちる仕組みも整備していきたい
- お金を稼ぐための事業と、知名度を上げる・交流人口を増やすための事業の両面で進めていく必要がある
- 羽村単独ではなく広域連携で観光PRをしていく、また連携内でも輝ける資源の深掘りと打ち出し
- 観光振興のプレーヤーとなる人を集める・繋げる・育てる
- 季節によって来訪者にばらつきがあるので、一年中訪れたくなるような観光資源が必要
- イベントや自然、文化財など、羽村の魅力の効果的な情報発信
- 市民の意識醸成